



「褒めること」と「叱ること」

朝から慌ただしく蝉の声が響きわたり夏の訪れを感じます。蒸し暑い日が続いておりますが、子ども達は元気いっぱいです。水遊びやプール遊びを通して、夏という季節を思いっきり感じながら楽しんでいきます。

ところで突然ですが、最近お子さんを叱ったことはありますか？あるいは怒ったことはありますか？

おそらく、子育てをしていれば大なり小なり両方あるのではないのでしょうか。ひよっとすると「そんなことは日常茶飯事です。」という声が聞こえてきそうです。

ふと、「叱る」と「怒る」の違いが気になりました。

広辞苑で調べてみると、「叱る」と「怒る」は違います。この両者はよく比較されますが、簡単に言うと「叱る」は、より望ましい行動に導くという指導の色合いが強い一方で、「怒る」は、ただ親が子どもへの不満を感情的にぶつけるという色合いが強いようです。

それぞれ目の前の子供のよくない状況を改善、解決したいという思いは同じであっても、子供が受ける感情は大きく変わります。教育的には「怒る」のではなく「叱る」が望ましいです。

人は、褒められたり、叱られたりしながら、一步一步、一人前になっていきます。褒められることで自己の存在を確かめ、叱られることで人としての厚みを獲得していきます。

ご承知のとおり、叱られるだけの育ちは悲しいものです。これは、知らないうちに深いマイナス思考の心が育まれます。

また、褒められるだけの育ちも手放しでは喜べません。すくすく育っているかに見えて、独りよがりであったり、打たれ弱かったりするかもしれません。大切なことは、うんと褒められ、きちんと叱られる育ちです。

褒めることのできる人と、叱ることができる人は、どうやら根っこは同じ気持ちをもっていると思います。

当然、私たち保育教諭も子供を褒め、時には叱ることもあります。褒めることと、叱ることは真逆の行為のようですが、その言葉に愛情を注ぎ、気持ちを伝えることで子供との信頼関係は確かなものになっていきます。

園としましては、お子さんを褒めた時も叱った時も保護者の方へお伝えしますので、褒められたときはご家庭でも価値付けをお願いします。

反対に、叱った時は、お子さんに叱られた理由を分かるよう丁寧に話しますが、時にはうまく伝わらず、保護者の方にお子さんへのフォローをお願いする場合がありますのでよろしく願いいたします。

いずれにしても一番悲しいのは、褒められも叱られもしない育ちです。なぜなら、それは「無視」と同じだからです。それだけは避けたいものです。